

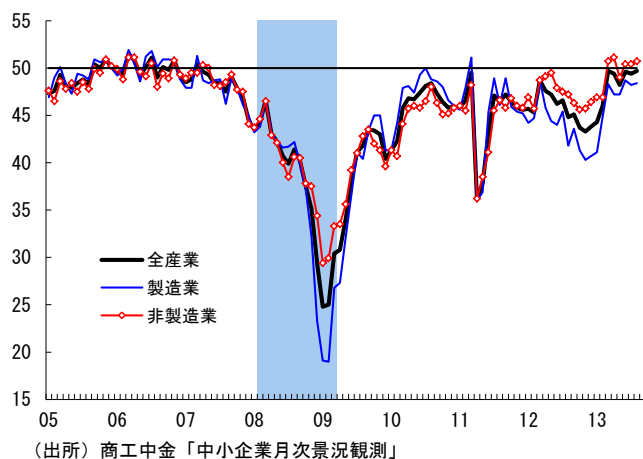
指標名：中小企業の業況(2013年8月)

発表日2013年8月28日(水)

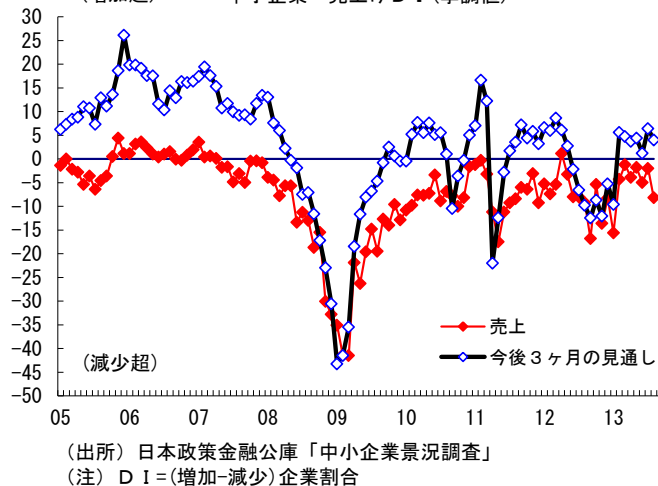
～引き続き景況感の水準は高い～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 高橋 大輝
TEL : 03-5221-4524

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



(増加超) 中小企業 売上げDI (季調値)



○景況感の水準は高い

商工中金から公表された8月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：8月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で49.7(7月：49.4)と小幅上昇した。均してみると上昇傾向での推移となっており、水準も高い。中小企業の景況感は良好だと判断できる。

業種別にみると、製造業が48.4(前月差+0.2pt)、非製造業50.7(前月差+0.3pt)と、ともに前月から小幅上昇した。製造業は木材・木製品、鉄鋼、金属製品が前月差+7.0ptと大きく改善した。木材・木製品は建設業の好調さ、鉄鋼、金属製品は前月大幅低下したことが影響したとみられる。非製造業は建設(前月差+1.0pt)や不動産(同+3.0pt)が上昇しており、堅調な住宅需要や公共投資の増加などが景況感を支えているとみられる。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：8月中旬)の売上げDI(季節調整値)は▲8.2(7月：▲2.0)と低下した。需要分野別にみると、乗用車関連、建設関連、食生活関連が低下した。特に乗用車関連の大幅低下が目立つ。日本政策金融公庫によると、大企業の業績が改善しても下請け企業にはまだ恩恵が及んでいないとの声が聞かれたとのことである。建設関連では人手不足などにより思うように工事が進んでいないこと、食生活関連では猛暑やゲリラ豪雨などの天候要因が影響したとみられるとのことだった。ただし、今後3ヶ月の見通しではほとんどの業種が上昇を見込んでいることもあり、低下基調で推移していくことは避けられるだろう。

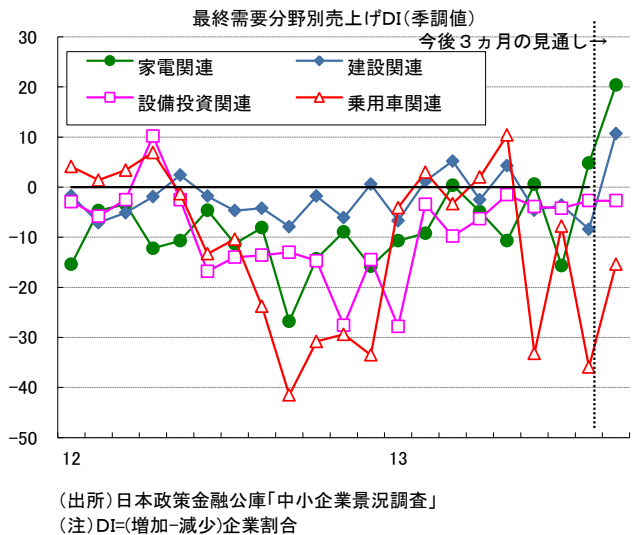
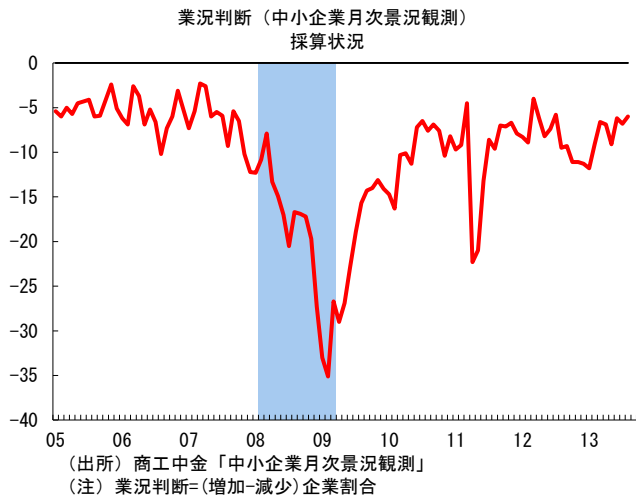
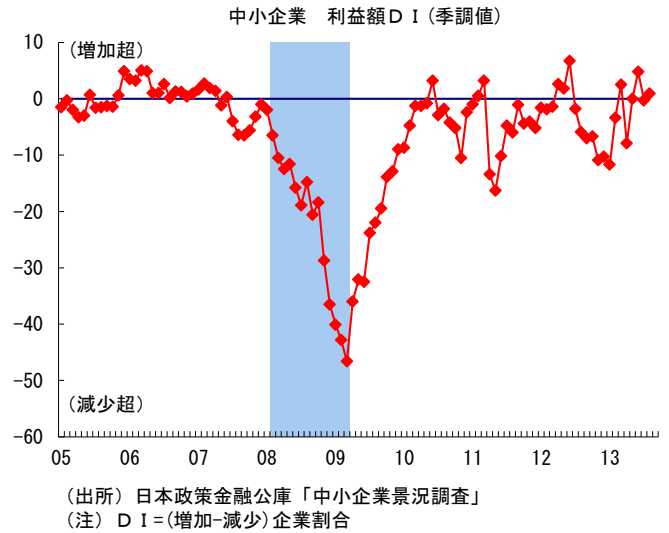
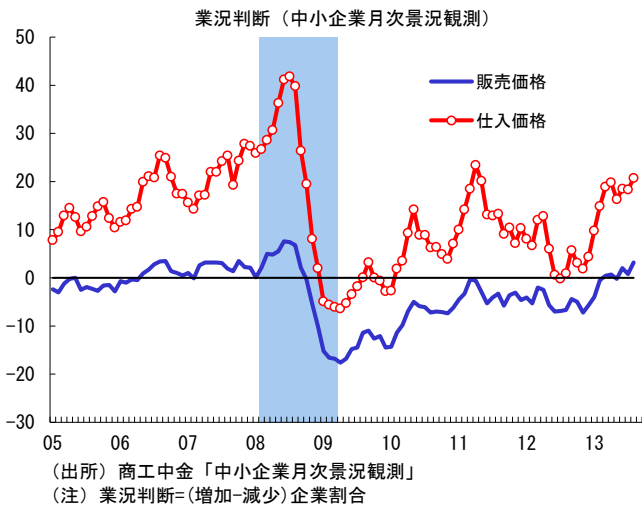
○販売価格の上昇、採算の改善に明るい兆し

円安による原材料高などが価格転嫁できなければ、中小企業の採算悪化は避けられない。景気ウォッチャー調査などでも、コスト高による収益圧迫を嘆くコメントがみられる。しかし、足元では価格転嫁の兆しが窺える。販売価格DIをみると、「中小企業月次景況観測」、「中小企業景況調査」とともに、「上昇」超に転じ始めている。また、採算DI(中小企業月次景況観測)や利益額DI(中小企業景況調査)でも、均してみれば上昇基調で推移している。円安などによるコスト高が徐々に価格転嫁され始めていることから、採

算の改善に繋がっているものとみられる。

○先行きも良好な水準での推移が予想される

このように、中小企業の景況感は小幅上昇し、高い水準での推移となった。先行きも景況感は良好な水準で推移していこう。「中小企業月次景況観測」の9月予測は製造業、非製造業ともに上昇が見込まれている。円安による輸出数量の押し上げ効果や輸入量抑制（国内品調達の押し上げ）効果の本格化が期待され、中小企業にも徐々に円安の恩恵が享受されよう。また、消費税率引き上げ前の駆け込み需要によって住宅着工や緊急経済対策効果によって公共投資が好調に推移することも中小企業に利益をもたらすと考えられる。前述したように価格転嫁や採算改善の兆しも窺えることから、景況感は良好な推移を保つだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。